

いちばん身近な文芸誌

編集・発行 **日本民主主義文学会**

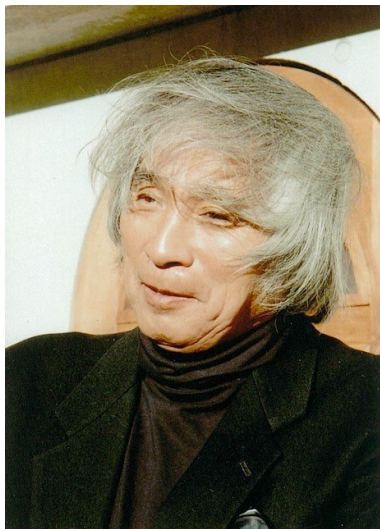
TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339
メール info@minsyubungaku.org
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 -202

民主文学 11月号から新連載スタート

この機会に、『民主文学』をぜひご購入ください。



窪島誠一郎(くぼしま・せいいちろう)
戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主。
一九四一年東京生まれ、著書に「父への手紙」(筑摩書房)「無言館ものがたり」(講談社)近刊に「流木記」(白水社)など多数。二〇〇五年「無言館」の活動により第五十三回菊池寛賞を受賞、二〇一六年平和活動に与えられる第一回「澄和」フューチャリスト賞を受賞。



窪島誠一郎さんの魅力の新連載エッセイ!

「無言館」だより

信州の四季を重ねて、時代への思いを綴る。

新連載にあたって

信州上田の丘に、戦没画学生慰霊美術館「無言館」をつくって早や二十五年にもなる。正直、四半世紀も存続できるとは思っていなかったというのが館主の私の感想なのだが、何よりふしぎなのは、この「美術館」が収蔵されている画学生のだれ一人の賛意も許しも得ぬまま建設された施設であることだ。

一人の画家の生はその画家が描いた絵に永遠に宿る、とは私の不変の哲学だが、いっぽうでそうしたかたちの「もう一つの命」が、生き残った者たちの「自省」や「悔悟」や「プロパガンダ」の具にされつつづけている現実には、何となく罪の意識さえ感じる。画学生たちの自己表現たる作品が、本当の意味で私たちの心

にうけとめられるということはいかなる状態をいうのか。
新しく連載させていただくことになった「無言館」だよりでは、四季折々の東信濃の自然の香りや友人知己との交流とともに、日々苦闘のたうちまわる八十二歳老美術館主の悲哀もお届けしたい。



★下の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

購読申込書

申し込み

民主文学購読費 月額988円(送料込み)

月 日

FAX番号 03(5940)6339

いずれかに○印をつけてください。

- () 11月号より定期購読する。
- () 「『無言館』だより」連載中のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号